

特集：「レ・コード」のまち新冠②

平成9年8月号掲載
広報にいかっぶ



「レ・コード館」が ついにオープン

平成9年8月号広報では、町民待望のレ・コード館がオープンした様子が紹介されています。レ・コード&音楽によるまちづくりの中核施設であり、町民文化の殿堂でもある、新冠町聴体験文化交流館（愛称：レ・コード館）が6月8日（日）オープン。11時45分から来賓や工事関係者、町関係者によるオープンセレモニーがレ・コード館内で行われ、一般来場者のレ・コード館入館が12時からスタート。午後1時と6時からの2回、町民ホールのこけら落としとして音楽劇「飛翔にいかっぶ」が行われ、この1日で町内外から4000人以上の皆さんが訪れました。



レ・コード館の 施設紹介

レ・コード館が開館した当時、広報にいかっぶでは、約半年にわたり利用方法などを紹介をしました。ここからは、広報担当者がレ・コード館を訪れ、現在、施設がどのようなに使われているか取材してきましたので、その様子をご紹介します。



こけら落とし 音楽劇「飛翔にいかっぶ」

レ・コード館の開館に合わせ、約300名の町民の方が参加され音楽劇が上演されました。広報紙には、公演の様子が詳しく書かれています。レ・コード館町民ホールの「こけら落とし」。町民自らで開催された音楽劇「飛翔にいかっぶ」は、一部に北海道交響楽団の応援をもらったほか、キャストや運営スタッフの大半を町民の皆さんの参加により行われました。2月末の練習開始から当日までの、言葉に言いにくい練習成果と、大道具・小道具の準備、音響、照明などの連携プレーにより、感動の音楽劇が完成。昼夜2回の公演で披露され、会場の多くの町民などから惜しみない拍手が送られました。



レ・コード館の「今」を探るため、施設を訪問。カウンターでは、レ・コード館ガイドに出迎えていただき、まず最初に、蓄音機やレ・コードの歴史が学べる「レ・コードミュージアム」を案内していただきました。



ミュージアム は、レ・コードの生みの親「エジソン」の研究室からスタートです。

ガイドおすすめの展示物の蓄音機。電話が発明した「グラハム・ベル」が制作した蓄音機の試作機で、現在、実物を見ることができるとは、「レ・コードミュージアム」の「レ・コードミュージアム」です。

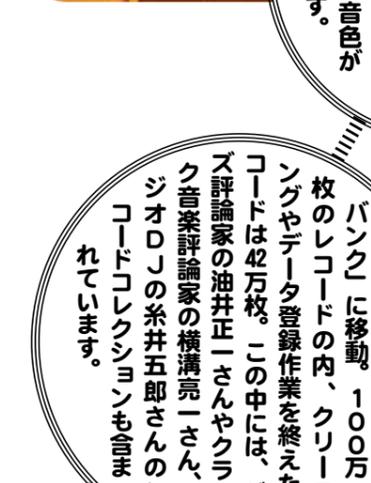
1928年に発売された「E.M.G. Co.社」の蓄音機。巨大なラッパが特徴で蓄音機の最高峰と呼ばれる名器と言われており、SPLレ・コードとは思えない、臨場感のある音色が楽しめます。

「レ・コードホール」は、レ・コードの記録された音を忠実に再現できるように設計されているとのこと。目を閉じると目の前で演奏しているか錯覚するほどでした。ここには定期的なレ・コードコンサートも開いているので、皆さんもぜひ一度参加してみてください。



最高の音質でレ・コードを聴けるようにと作られたのが「レ・コードホール」で、その心臓部ともいえるのが長さ3.4メートルの「オールホーンスピーカー」。この巨大スピーカーでレ・コードを聴くことができます。

レ・コード館 再・発・見 「レコード施設」



レ・コードで見る町史

レ・コードミュージアム

レ・コードミュージアム

レ・コードミュージアム